

トップ選手育成事業「クラブ選手海外派遣活動」

オースティンからの便り



55日間康成お疲れ様でした。

怪我なく、事故なく、病気なく、私の一番大切にしている言葉です。

野球、サッカーでは、すっかり当たり前のように海外プレーヤーが育ち世界と戦っています。他のスポーツでも進んでいます。陸上競技の世界も少しずつ若い選手たちが海外のフィールドに練習環境を映しています。しかしそこには、単身海外に乗り込みそこの生活、環境に慣れトレーニングを完璧に積むことの難しさはあると思います。

今回、康成はその一歩を踏み出しました。1月11日～28日までメキシコでの3週間の合宿、2月国内で練習をしてから、3月5日～4月30日までアメリカテキサス州オースティンでの生活。心配しましたが、見事に康成が無事こなしてくれました。

スポーツ選手として一番大切なことは、夢を持って、目標を持って、生きがいを持って計画をやり切ること！怪我なく、事故なく、病気なく、今回それができたことは大変素晴らしいことで、次の7月からの遠征の自信にもつながると思います。結果はおのずとついてくるもの、このまま1年2年3年と積み重ね本物の力にして欲しいと思います。まずは、第1次アメリカ武者修行お疲れ様でした。

<テキサスリレー>

800m 9位 1分51秒54 (3月30日)

この時期にしては、本人の800mのタイムとしては評価できます。初の海外800mレース感覚の違いを痛感したようです。

1マイル 8位 4分06秒97 (4月1日)

初マイルの出場、マンザーノ選手に付いて行ってラスト1周を2番手で通過、ラスト200m動かず8位に。少し残念でしたが、手応えを感じる走りでした。

ファミリーのような温かい雰囲気の中で康成を指導してくれているライアン・ボンソンビーコーチ、兄のように支えてくれているマンザーノ選手、楽しそうに厳しいトレーニングを積む仲間の選手達に感謝申し上げます。ありがとうございました。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

監督

3月、4月と2か月間、アメリカ、テキサス州のオースティンという町に武者修行に行かせていただきました。

向こうでは今まで僕自身が世界を目指すために考えてきたものとは違う、とても新鮮な練習ばかりでした。中距離に必須の、スピード、フィジカル面での練習、1500mを速く走りきるためのスタミナトレーニングなど、勉強になることばかりでした。あまりにも今までの練習とは違って、もっといっぱい距離を踏んだりしたほうがいいのか、など不安に思うこともありましたが、そんなことも相談できる、優しくて頼もしいコーチとも巡り合うこともできました。

Ryan ponsonby コーチは34歳と、とても若いコーチで選手に近い目線で楽しく、時には厳しく、指導をしていただいています。そんなコーチを信頼して日本の中距離を引っ張っていける存在になりたいと感じています。

生活面では、一番料理に苦労をしました。最初は全然おいしくないし、彩も悪く、もう悲惨でした！今まで黙ってても出てきたご飯がこんなに大変だったとは、いろいろな人に感謝です。

レオマンザーノ選手にはとても可愛がってもらって私生活でも、いっぱい助けていただきました。憧れの選手の練習パートナーとして走っていることは大きな自信になっています。向こうでの練習の成果をまず第一弾として、東日本実業団、日本選手権、ここで発揮したいです。

ここに来るまでにはクラブをはじめ、いろいろな人たちにお世話になり、それがあってこそ今の今だと思えます。思いっきり楽しく挑戦するのは当たり前ですが、結果で恩返しできるよう、自分らしく頑張ります！！これからもご声援よろしくお願ひします。



康成